

手話DEトランプ

耳の不自由な方のコミュニケーションの手段である手話はその存在を知っていても手話を使える人はほとんどいません。

耳の不自由な人達は特に街に出る時にその不自由さを思い知らされるようです。そこで少しでも手話を一般の人、もっと広くの世の中に浸透するにはどうしたら良いかという事を考えました。

私たちは本物の手話に触れ手話の大切さを知る機会を得ることができました。そこで、他の方々にも手話をもっと身近に感じてもらうことが出来たらと思います。



や



ち



手話には、動詞や名詞などの単語を意味する手話とは別にひとつの指の形が五十音のひとつの文字を表す指文字というものがあります。



いろいろな言葉の手話を覚えるのは大変でも、五十音の指文字を覚えれば、とりあえずカタコトでも意思を伝えることは出来るはずです。

手話DEトランプ(以下しゅわんぷ)では、通常のひらがな46文字に加え、促音のや、ゆ、よ、つの四枚とジョーカーの三枚を加えて52枚のカードをトランプの半分部分に付けます。

他に、濁点(゛)、半濁点(゜)はそれぞれ手話は→右、↑上、↓手前のそれぞれの矢印で表します。状況に応じてどちらにも使い分けることができるようにします。

この五十音の指文字をトランプと合体させ、トランプの遊びに手話文字を組み合わせた遊びや、手話独自のゲームを楽しみながら、手話を一般の人にも覚えてもらうことができます。



さ



ち



指文字五十音一覧・遊び方見本



ババ抜き

普通のトランプでやる場合、相手のカードを一枚引きそのカードに書いてある数字と自分の手持ちのカードに書いてある数字をあわせ、同じものがあればそれを場に捨てる、というやり方をしますが、このしゅわんぷでは同じ数字をあわせるのではなく、そのひらがなと同じ母音を持つ文字——たとえば「き」なら「い」や「し」——をあわせ、場に捨てます。そして、ジョーカーにあたる文字は段にも行にも属さない「ん」となります。この場合、元々あるジョーカー・拗音や促音のついているカードは使わないものとします。

七ならべ

五十音の真ん中のな行を七ならべの七にあたる文字とし、ゲームを始めます。ちなみに、ババ抜きと同じく段にも行にも属さない「ん」はジョーカーの役割を果たし、促音・拗音のカードは省きます。

カルタ

まずジャンケン等で親を決め、場にカードを広げてからゲームを始めます。親に決まった人は、自分の好きな指文字をつくり、他の人に見せます。他の人は、場にまかれたカードの中から親がつくった指文字と同じものを探します。とったカードの枚数で勝敗を決定します。

神経衰弱

普通の神経衰弱は同じ数字をそろえますが、しゅわんぷの神経衰弱では数字をあわせるのではなく単語を作ります。カードは好きなだけひくことができますが、一回単語にならない文字のカードをひいてしまうとそこで今までひいたすべてのカードは自分のものにはできません。ですが、うまくいけば「ナイアガラ」などの長い単語をひくこともできます。そして、長音が入っている単語は「アクセサリイ」などとなります。最後に普通の神経衰弱と同様に枚数で勝敗を競います。

言葉つなぎ 上級編

まず、カードを人数分すべて分けます。ジャンケンで順番を決め、勝った人から時計回りに自分の手札から好きな指文字を選び、手でその形を表します。この時、その形の文字を声に出したりカードを相手に見せてはいけません。次の番の人は前の番の人が表した指文字に続いて文章になるように指文字を手札から選んで表します。一度使ったカードは場に捨てます。これを繰り返して、一番早く手札がなくなった人の勝ちです。